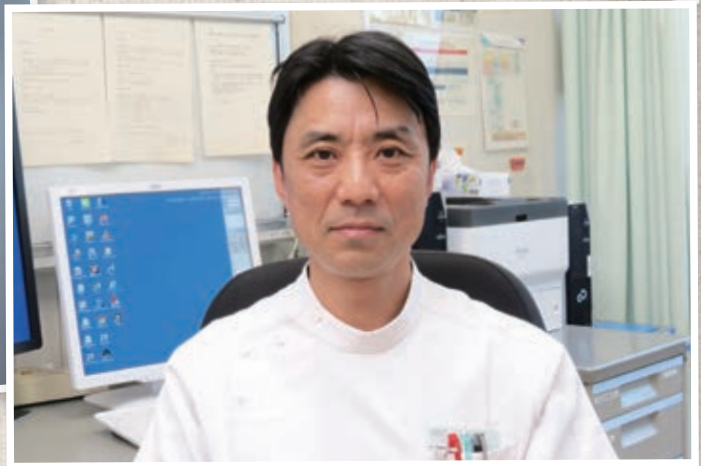
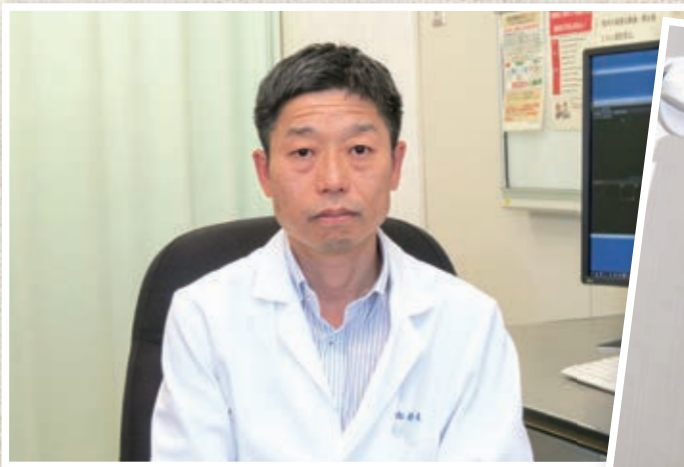




Handa Byouin Dayori

半田病院だより



令和6年1月17日に、YouTube動画の撮影を行いました。
半田病院での脳ドック受診の流れや必要性についての説明を行っている動画です。
当院YouTubeアカウントにてアップしておりますので、ぜひご覧ください。チャンネル登録もよろしくお願いします！

半田市立半田病院 広報部会



脳ドックについて

脳神経外科 医師 島戸 真司

脳ドックは、脳の病気の有無や病気のリスク、脳の状態などを調べるために行う脳の健康診断の一種で、主にMRI検査で行います。脳の病気には、大きく分けて、脳の血管が関係する脳血管障害と、脳の中にできものができたり脳が変化を起こす病気(脳腫瘍、認知症、水頭症、等)があります。

脳血管障害は、40～50歳以上になると多くなり、脳の血管が切れて起こる脳出血、脳の血管が詰まって起こる脳梗塞、脳動脈瘤という脳の血管にできるコブが破れて起こるくも膜下出血は「脳卒中」とも呼ばれ、日本の死亡原因の上位にあり、命が助かって後遺症が残ったり寝たきりになる原因にもなります。何も症状がなくても、細かい血管が詰まったり(無症候性脳梗塞、いわゆる「隠れ脳梗塞」)、小さな出血を起こしたり(脳微小出血)、脳の血管が動脈硬化により細くなっている(脳血管狭窄)と、脳卒中を起こすリスクが高くなります。また、くも膜下出血の原因である脳動脈瘤は、成人の3%程度で見つかると言われていています。脳ドックでは、そのような脳や脳の血管の変化の有無を調べることができ、異常が見つかった場合は予防的な治療が必要なこともあります。

脳の中のできものである「脳腫瘍」は、良性から悪性まで様々なものがあります。脳の大事な部分にできたり、大きくなったりすると手足の脱力、しびれ、頭痛などの症状が出てきますが、最初のうちは症状がないことも多く、症状が出てきたときには脳腫瘍が進んでいることもあります。脳ドックでは脳の中を細かく調べることができ、小さな脳腫瘍も見つけることができます。また、脳の萎縮の程度を調べることで認知症のリスクを評価することもできます。

高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙歴がある方は、脳血管障害のリスクが高くなるため、将来的な脳の病気に特に注意する必要があります。そのような方や脳の病気が気になる方は、脳ドックを受けることをお勧めします。





MRI検査について

放射線技術科 放射線技師 宮條 さとみ

MRI検査とは、強力な磁力と電磁波によって人体の様々な部分の断面を撮像する検査です。レントゲン撮影やCT検査のような放射線を使用する検査とは違うため被ばくの心配はありません。頭部MRI検査では、筒型の装置に入り約30分間検査します。



頭部MRI検査で発見できる脳疾患には、無症候性脳梗塞、くも膜下出血の原因となる未破裂脳動脈瘤、血管の狭窄・閉塞、脳腫瘍等があります。MRI検査では脳の輪切り画像や血管のみを描出し3D画像処理を行うこともできるため、これらの疾患を早期に発見し予防することができます。また、脳の萎縮度から認知症の可能性を数値化して表す、認知症診断支援システムも導入しています。早期アルツハイマー型認知症の画像診断ポイントとなる内側側頭部の萎縮度評価を行っています。



オプション検査について

臨床検査技術科 臨床検査技師 磯貝 美帆

検査科では脳疾患と関連の強い循環器疾患の検査を行っています。心電図検査、心臓の超音波検査、採血で心臓の機能評価をし、血管に関しては頸動脈の超音波検査と血圧脈波検査(ABI)を用いて評価しています。

心電図検査では主に不整脈の有無が重要であり、不整脈があると血液の流れが悪くなり、血管内に血栓をつくりやすくなります。心臓の超音波検査はリアルタイムで心臓の動きを把握することができ、心筋梗塞の有無や弁膜症、血栓がないか見ています。採血では心不全のマーカーとされているヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)を測定しています。頸動脈の超音波では首から頭に向かう血管(頸動脈)が左右にあり、それぞれ血管の狭窄の程度を評価しています。

血圧脈波検査は動脈の狭窄や閉塞を評価します。両手首と両足首の血圧を測定することで血管の狭窄や動脈硬化の程度がわかります。

このように様々な種類の機械を用いて心臓と血管を多方面から評価しています。



能登半島地震 半田DMAT 出動

救命救急センター看護師 DMAT隊員 松下 智昭

1995年1月17日 「阪神・淡路大震災」
この時、初期医療体制の遅れから、
避けられた災害死が500名とも報告されています。
その教訓から、“一人でも多くの命を助けよう”
厚生労働省により平成17年4月に
「DMAT」が結成されました。DMATとは、
Disaster Medical Assistance Team
「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されています。医師・看護師・業務調整員(コメディカル)で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に出動します。

令和6年1月1日16時10分
石川県能登半島を中心にM7.6の大規模な地震が発生しました。半田DMAT出動要請があり、翌1月2日に医師1名 看護師2名 業務調整員2名体制で現地に半田DMAT第一陣として出動しました。七尾市公立能登総合病院を拠点に、介護老人保健施設を回り、被害状況等を把握しました。

その後、被害の大きかった病院の支援や患者搬送もしましたが、発災から間もなかったため道路は倒壊し、建物倒壊や土砂崩れなどが多数散見される中で3日間活動を行いました。

1月7日には、大雪が降る中、第二陣の半田DMATが現地へ向かいました。半田DMATは、輪島市の避難所部門を統括する統括リーダーの役割となりました。その当時、輪島市内に140以上の避難所があり、さらに多数の孤立地域で被災者が生活をしていました。孤立地域には車両が入れないため、DMATは雪道を徒歩で現地に向かい、被災された方を避難所へ搬送するといった、今までになく過酷な業務となりました。

今回の災害は、能登半島という海に囲まれ、主要道路が限られている場所での発災です。その限られている主要道路は、倒壊している箇所が多く、支援車両もなかなか現場に入れませんでした。半島での災害支援の難しさを実感するとともに、知多半島でも同じ災害が起こったら…と、考えさせられました。そして、「水道が使えず水がでない」、道が寸断されて「食料が届かない」といった状況を目の当たりにして、再度感じたのは、普段から備えの大切さです。「自分は大丈夫」「この場所は大丈夫」ではなく、自分を守るために…大切な人を守るために…

いま一度 ご自身、ご家族の防災について考えてみませんか？



2023年度

愛知県サービスロボット

社会実装推進事業 (ARX事業) について

経営企画室 医療主事 木村 文

サービスロボットと聞いてどんなロボットを想像しますか？サービスロボットは様々な場所で活躍しています。ファミリーレストランの配膳ロボット、商業施設内の案内ロボットなどがあります。医療業界では、手術支援ロボットが活躍している反面、その他業務ではまだまだ導入されておりません。

当院では新病院に向けて、職員の業務負担を軽減するためにサービスロボットの導入を検討しています。その一環として1月29日～31日の期間、病院内でサービスロボットがどんなことができるか検証することを目的としてARX事業に参加しました。当院の実証検証には9社（10機）が参加し、「院内搬送」「遠隔診療/投薬説明補助」「ご家族案内」「院内案内」「院内清掃」の5分野を実施しました。

ロボットの導入を実現させて職員の負担を軽減するとともに業務の効率化により患者へのケアをより充実させて患者にも職員にも優しい病院を目指していきます。



いきいき健康講座を開催します

ヘルスプロモーションチーム会

地域の皆さんの健康支援・増進を目的として毎月「いきいき健康講座」を開催し多くの方に参加していただいています。いきいき健康講座は医師、看護師、薬剤師、栄養士等様々な職種で構成されている「ヘルスプロモーションチーム」が担当しています。申し込み不要ですのでご興味のある方はお気軽にご参加ください。

「はんだ健康マイレージ」対象事業です。(詳細は半田市ホームページ参照)

開催日 毎月第2水曜日 午前10時30分～(30分程度)

場 所 半田病院正面玄関ホール

日にち	講座内容	講 師
4月10日	がんになってもいきいきと暮らしていくために	医療ソーシャルワーカー
5月8日	お薬手帳の使い方	薬剤師
6月12日	口腔乾燥について	歯科衛生士
7月10日	細胞診について	臨床検査技師
8月14日	今、目の前で人が倒れたら！～容体が急変した時の対応を学ぼう～	救命救急センター看護師
9月11日	認知症について	認知症看護認定看護師
10月9日	脳卒中一次予防について	脳卒中医看護認定看護師
11月13日	放射線被曝について	放射線技師
12月11日	機能を維持して口からおいしく食べ続けよう	摂食・嚥下認定看護師
令和7年1月8日	高血圧について	管理栄養士
2月12日	フレイル予防について	理学療法士



出前講座 をご利用ください

リハビリテーション技術科 理学療法士 畔上 和久

病院で患者さんに対応している専門職としての知識や技術を少しでも活かして地域での健康支援・増進のお役に立てるように職員が学校、企業、各団体(自治体や各種クラブなど)に出向いてお話させていただく「出前講座」を行っております(知多半島内に限ります)。医療に関する知りたい事、聞きたい事(例:生活習慣病、癌、インフルエンザ、熱中症、認知症、各種検査結果、フレイル予防 など)ありましたら、なんでもご依頼ください。テーマの相談も承りますのでお気軽にご相談ください。

申し込み、開催実績は、半田市立半田病院ホームページ内の出前講座申し込み書をご利用ください。

お問い合わせは、

半田市立半田病院 リハビリテーション技術科:畔上 または 看護局:森田 までお願いします。

TEL 0569-22-9881 FAX 0569-24-3253

+ 病院だより+ 新病院コラム その 16



新病院JV

今年1月1日に、能登半島を中心に甚大な地震が発生しました。お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々やそのご家族の皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

さて、来年4月1日の新病院開院まで、早いもので残り1年となりました。本体建物は10月31日の竣工予定ですから、残された工事期間は、半年ほどです。

これまで適用が猶予されていた建設業や運送業に対する「働き方改革」も、今年4月1日から適用されました。一昔前の工事現場では、休日返上で夜遅くまで作業をするという光景が多く見られましたが、今はそういうわけにはいきません。

そのような事情もあって、当院の工事現場では、工事を少しでも効率的に進め、作業時間を短縮するための様々な工夫をしています。今回はその一部をご紹介します。

まず初めにご紹介するのは、「なるべく機械を使うこと」。

揚重機(クローラークレーン)の数を、当初計画していた4台から6台に増設し、どの面からでも揚重可能とすることで、作業効率を高めました。(写真1)

次にご紹介するのは、「絶えず改良を試みよ」。

通常、仮設足場の上など不安定な場所での高所作業となる鉄筋コンクリート梁の配筋作業を地上で行うことで、作業効率のみならず、安全性も高めました。(写真2)

地組みした梁は、この後、クレーンで揚重して、所定の位置にセットされます。

そして、最後にご紹介するのは、「なによりもまず計画」。

いささか手前味噌ではありますが、施主(半田病院)・設計事務所・施工者の3者で図面の打合せをしっかりと行って情報を共有し、納まりや使い勝手を事前に検討することで、工事の後戻りのないようにしました。一度造ったものをやり直すことほど無駄なものはありません。

本体工事竣工後も、植栽工事や医療機器の搬入など、まだまだ事業は続きます。皆様には今後大変ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。



写真1 工事現場全景 (令和5年11月21日撮影)



写真2 鉄筋コンクリート梁の地組み

半田市立半田病院 広報部会 (事務局 管理課)

〒475-8599 愛知県半田市東洋町2丁目29番地 TEL 0569-22-9881 FAX 0569-24-3253
Eメール byouin@city.handa.lg.jp URL <https://www.handa-hosp.jp>



ホームページ



YouTube